

シラバス

教 科	科 目	単 位 数	学 年	コ ー ス	組
理 科	N 生 物	4	3	理系GA	7,8

教 科 書	生物（数研出版）	副 教 材	スクエア最新図説生物（第一学習社）
			セミナー 生物（第一学習社）

科 目 の 目 標	<p>生物の進化，生命現象と物質，遺伝情報の発現と発生，生物の環境応答，生態と環境の5つの項目から構成され，</p> <p>生物や生物現象を分子の変化や働きを踏まえて扱う内容，動物や植物について主に個体レベルでみられる現象やそ</p> <p>の仕組み，生態や進化など生物界全体を概観する内容など，マイクロレベルからマクロレベルまで幅広い領域を学ぶ。</p>
-----------------------	--

科 目 の 概 要	<p>生物や生物現象に対する探究心を深め，目的意識をもって観察，実験などを行い生物学的に探究する能力と態度を</p> <p>養うとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を身につける。生物個体が外界</p> <p>の変化を感知し，それに反応する仕組みを理解する。生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識する。</p>
-----------------------	--

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	「生物の環境応答」・「生態と環境」について，さらに全範囲にわたり，基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を科学的に解釈したり，表現・処理したりする技能を身に付ける。	自然現象を多面的に捉え，論理的に考察することができる。また，実験結果から帰納的に考察することができる。事象の特徴を的確に表現することができる。表・式・グラフを相互に関連付けて考察するとともに，適切な手法を選択しながら分析を行い，問題の解決のための過程や結果を批判的に判断することができる。	粘り強く考え科学的根拠に基づいて判断できる。問題解決の過程を振り返って考察を深められる。評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 の 方 法	定期試験の得点	定期試験の得点および課題提出や出席状況等を含めた総合評価	課題提出や出席の状況等

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	第4編 生物の環境応答 第6章 植物の環境応答 ①植物の生活と植物ホルモン ②発芽の調節 ③成長の調節 ④器官の分化と花芽形成の調節 ⑤環境の変化に対する応答 ⑥配偶子形成と受精 【1学期 中間試験】 5月18日～21日	○植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。 ○種子の発芽や休眠、花芽形成や成長などに関与する植物ホルモンについて理解する。 ○植物の発芽や成長、開花が光などの環境要因に影響を受けて起こることを理解する。 ○植物の分化が遺伝子によって調節される仕組みを理解する。 ○被子植物の配偶子形成と受精の仕組みを理解する。
	第5編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 ①個体群の構造と性質 ②個体群内の個体間の関係 ③異なる種の個体群間の関係 ④生態系の物質生産と物質循環 ⑤生態系と人間生活 【1学期 期末試験】 7月1日～7日	○個体群内の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持される仕組みや個体間の関係性を見出して理解する。 ○個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見出して理解する。 ○生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質循環とを関連付けて理解する。 ○人間生活が生体に及ぼす影響を理解する。
2 学 期	【演習1】 基礎学力到達度テストに向け、基礎学力全範囲の演習する。 【演習2】 基礎学力全範囲の演習する。 【2学期 中間試験】 10月13日～16日	○基礎学力到達度テストに向けて、重要語句の確認を行い、基礎的な知識を身につける。 ○大学入試に向けて、重要語句の確認を行い、基礎的な知識を身につける。 ○問題演習を行い、記述形式や長文問題、計算問題に慣れる。
	【演習3】 全範囲を多岐にわたって演習する。 【2学期 期末試験】 12月1日～7日	○大学入試に向けて、重要語句の確認を行い、基礎的な知識を身につける。 ○問題演習を行い、記述形式や長文問題、計算問題に慣れる。 ○共通テストや私立大学、国公立大学の過去問題やそれに相当するような問題を解き、時間配分などの実践力なども身につける。
3 学 期	特別編成授業 生徒の進路および希望に合わせて受験講座と教養講座を設置する。	受験講座：大学入試問題に対応できる力を身につける。 教養講座：各自の興味・関心に合わせて、さまざまな分野の学習体験を通じて教養を深める。